



これからの気象状況や  
基本管理には  
万全な対応を！

# 茶



農業経営支援課  
福手 裕三

## 《春肥の施用》

早いところでは肥料を施し、いよいよ新茶期に向けての作業が始まります。これからの気象状況や基本管理には万全な対応をとり、本年の一番茶を迎えてください。

春肥は、生産収量に対する効果が秋肥より低いです。品質に対する効果は高いと言われています。品質向上に関係する魚粕などの有機質肥料を使った配合肥料を施しましょう。

早場所では2月中旬ぐらいから、遅場所では3月上旬ぐらいから施肥し、できる限り分けるように心掛けてください。肥料が分解されて根に吸収されるまでに少なくとも20日前後はかかるので、摘採時期を予測して施肥時期を調整しましょう。また、2回目の施肥は

1回目の施肥後25日ぐらいおいてからにしてください。

肥料は畝間にできるだけ幅広に施し、土とよく混ぜ合わせてください。雨水で溶けた成分は土の中をほぼ垂直に浸透していきます。肥料が1か所に多く施されると、その位置にある細根が濃度障害をおこして枯死してしまうことがあるので注意しましょう。

## 《春整枝》

前年の二番茶まで摘採した茶園で春整枝を行うと、気象条件や品種にもよりますが、一番茶の摘採が5〜15日くらい遅くなります。新芽数が減少することにも、新芽の生育のバラツキが大きくなり、品質が極端に悪くなります。

秋整枝していない茶園の春整枝をする時

に、品質低下よりも摘採期遅延を優先する場合は、従来通りの3月上旬に前年の二番茶後の整枝位置から4〜6cm高い位置で刈り取ってください。ただし、春整枝を早期に行うと日焼けが発生しやすくなるので注意しましょう。

## 《防霜ファン施設の点検》

設置してから長い期間が経過した防霜ファンが多くなりました。故障箇所が出てくるものが多くなると思うので、早めの使用前点検を行います。

